

# 帯広市のまちなか歴史館

観光地、とりわけタウンツーリズム（街なか観光）  
を魅力付ける1つに街並みがある。

帯広市内に、明治から大正、昭和初期にかけて  
建てられ、まちの歴史や産業、生活などを  
今に語り継ぐ“古建築”が点在する。

# 宮本商産 西2南5

1919(大正8年)雑穀相場で一喜一憂していた時代に建設される。  
第1次世界大戦の好景気で、一夜にして百万長者になったり  
一文無しになったりの山師が、まちなかにあふれていた。



# 小川銘醸(株)

帯広の地酒である照国を醸造していた。現在「そばの小川」として営業中



# 三井金物店

大通南5

1911(大正元年)完成。3連アーチ、煉瓦造りの重厚な建物。  
六花亭製菓が相原求一郎デッサン館として活用していたが、  
現在六花亭ホールとして活用されている。



# 岩野商店 東1南5

1912(大正2年)築造。土蔵づくりの建物で、  
大正期の面影をそのままに残している。  
カレー店「加釐屋東印度會社」撤退の後  
現在「十勝ベーグル店」として活用。



# 櫻湯

東2南6

昭和初期の銭湯。家庭に風呂がない時代、庶民のコミュニケーションの場として賑わっていた。現在使用されていない。



# 北の煉瓦 東2南13

煉瓦造りの倉庫として果物などを貯蔵していた。  
この建物を保存しようと「北の煉瓦を愛する人々」がギャラリーやカフェとして  
再生し活用している。



# 野口医院

東1南8

1929(昭和4年)総工費5万円をかけて完成。

当時、新築披露の代わりに帯広町役場の社会事業に200円を寄付。

玄関を中心にシンメトリー様式で建てられている。

休院してからかなりの年月が経ち、老朽化が激しく、平成20年解体。

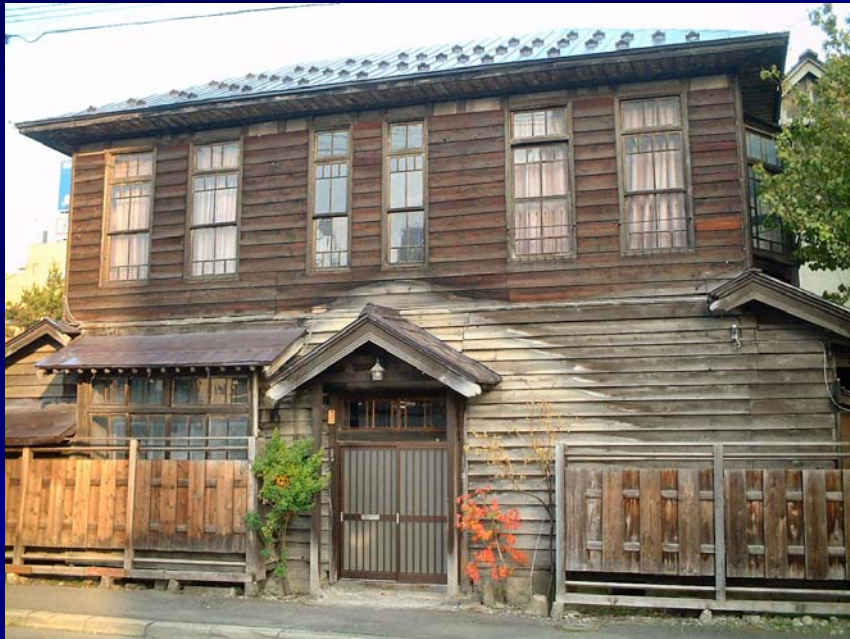




# 野口医院住宅

東1南8

板壁、木枠の窓、玄関の門灯が懐かしさを感じさせる  
昔のほとんどの住宅の外壁は板壁であった。  
家を取り囲む木製の塀も懐かしい。



# 安田銀行

大通南9

1933(昭和8年)建設。安田銀行、富士銀行を経て、現在は十勝信用組合。  
2005年、老朽化のため外壁を改修。当時の建物に比べると、玄関に風除室が渡く  
られている。建物内部はほとんどが当時のまま使われている。



# 双葉幼稚園

東4南10

設計士フランク・ロイド・ライトの図面を参考に、臼田 梅 園長が設計。

1922(大正11年)竣工、翌年4月開園する。

現在も園児が通っており、この幼稚園出身者には帯広市の著名人が多い。



# まちなか歴史館巡り観光馬車



大正から昭和にかけての帯広の面影を残す歴史的建造物が、少ないながらもまちなかに現存しています。これらの建物を観光資源として再生、活用し、観光馬車で巡って帯広を紹介するのはどうでしょうか？

また、マップ片手に自転車や散歩がてら、回遊するのはいかがでしょうか？

他の都市との違いを見せるには、十勝・帯広らしい「草の根の文化・歴史」を紹介するのが一番だと思います。時代と共に薄れゆく街の移り変わりを「観光客」(来る人)はもちろん「十勝・帯広の若者」(住む人)にも知ってほしい。

故きを温ね新しきを知り、これからのコンパクトシティの街づくりに生かしていくことが重要です。